

Title	特集「身体と医療の社会学」によせて
Sub Title	
Author	藤田, 弘夫(Fujita, Hiroo)
Publisher	三田社会学会
Publication year	2003
Jtitle	三田社会学 (Mita journal of sociology). No.8 (2003.) ,p.1- 2
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	特集: 「身体と医療の社会学」
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AA11358103-20030000-0001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

特集「身体と医療の社会学」によせて

藤田 弘夫（2002年度大会・シンポジウム企画担当）

近年、身体に対する関心が急速に高まっている。医療や看護に関する研究は社会学のひとつの焦点となりつつある。三田社会学会の会員のなかで生命、健康、医療などに関心をもつ若い会員が増えている。学部の卒業論文や修士論文も、この分野を扱うものが、急増している。さらにいくつもの博士論文が、このテーマで準備されている。また、元々は社会学の他の分野を専攻していた会員が、勤務先の関係や委託研究の経験から身体や医療・看護の分野に足を踏み入れたケースも少なくない。三田社会学会の会員は幾つかのグループに分かれて、この分野の研究を進めているようである。

ところで、日本の社会学において医療や看護の分野に関心が集まったのは、今回が初めてではない。社会学の研究において最初に医療や看護の分野が脚光を浴びたのは、新制大学の発足にともなってであった。この時、新制大学には医学部進学課程や医学部保健学科が設置され、アメリカの影響の下に社会学の科目や講座が設けられていった。その後、医学部における社会学の研究は、それほど活発にはならなかった。むしろ時の経過とともに病院管理学などの講座のなかに吸収される傾向にあった。また、健康や医療に関する研究は社会学の学会でも周遍的な分野であった。

ところが、最近の社会福祉学や看護に関連する学部の設置にともなって、社会学のなかの健康や医療に関する分野は急激に拡大することとなっている。さらに近年の移植医療などの発展は、人文社会科学の分野にも幾多の問題を投げかけた。医療の専門家だけによる議論の危うさが各方面から指摘された。移植医療は倫理学を活性化させたばかりではなく、各方面にこれまでとは違った問題を提起することとなった。しかし人文社会科学の領域に身体や医療の分野の議論が急に持ち込まれたために、戸惑いを感じざるを得ない点も少なくない。岡本裕一郎『生命・環境倫理学』（ナカニシヤ出版 2002年）は、こうした危惧を内側から明らかにした。

社会学において身体や医療に関連する分野は急に大きな分野になってきている。近年は、ジェンダーやセクシュアリティの問題群とも関連して、身体や医療の研究は、社会学の主要な部分となっている。とくにM. フーコーの議論はこの分野に、深さと広がりを与えることとなった。かつての社会学の教科書には、身体や医療の問題は扱われていなかった。なかには触れて

いるものもあったが、どちらかといえば付録的なものであった。

しかし近年の社会学の教科書では、身体や医療は重要な位置を与えられている。A. ギデンズの『社会学』は、社会学の教科書のベストセラーとなっている。販売数は累計で30万部に達しているという。その第二版では、「ジェンダーとセクシュアリティ」が全22章のうちの第6章で扱われていた。さらに三版では、全体が21章と減少しているにもかかわらず、健康と医療の分野は第5章「ジェンダーとセクシュアリティ」と第6章「身体—摂取、病気、高齢化—」と増えている。

ところで、身体や医療の問題はもともと社会学の研究と深くかかわってきた。今年1903年にイギリスにおいて世界で最初の社会学会が結成されて、ちょうど100年を迎える。1904年には世界最初の社会学会が、ロンドンで開かれている。その時の報告が、有名なフランシス・ゴールトンの優生学(Eugenics)の定義と目的に関するものであった。その後の社会学にとって優生学との関係は、決して幸福をもたらさしはしなかった。しかし社会学も1世紀をへて、身体や医療の問題に新たな関心をもとうとしている。

三田社会学会では身体や医療に関する知識を深めるために、この分野で深い知見をおもちの人類学、倫理学、医学の学問領域を異にする3人の研究者に、不断の研究成果を披露してもらうこととなった。これを機に三田社会学会の会員が身体や医療に関する知識を交流する機会となればと願っている。

(ふじた ひろお 慶應義塾大学文学部)